

ぼったくりガード

本田真久, 大森貴通, 水野慎太郎, 吉川莉央
山元賢也, 久米史也, 大橋滉也, 中井峻日

課題と背景

課題

キャッチからの勧誘やマッチングアプリを利用したぼったくり被害の増加 (図1)

現状

- 民事不介入
 - ・ 自力で交渉するしかない
 - ・ 脅迫や監禁されない限り警察は来ない
- 払ってしまったお金を取り返すのは難しい
 - ・ 立証には音声などの証拠が必要

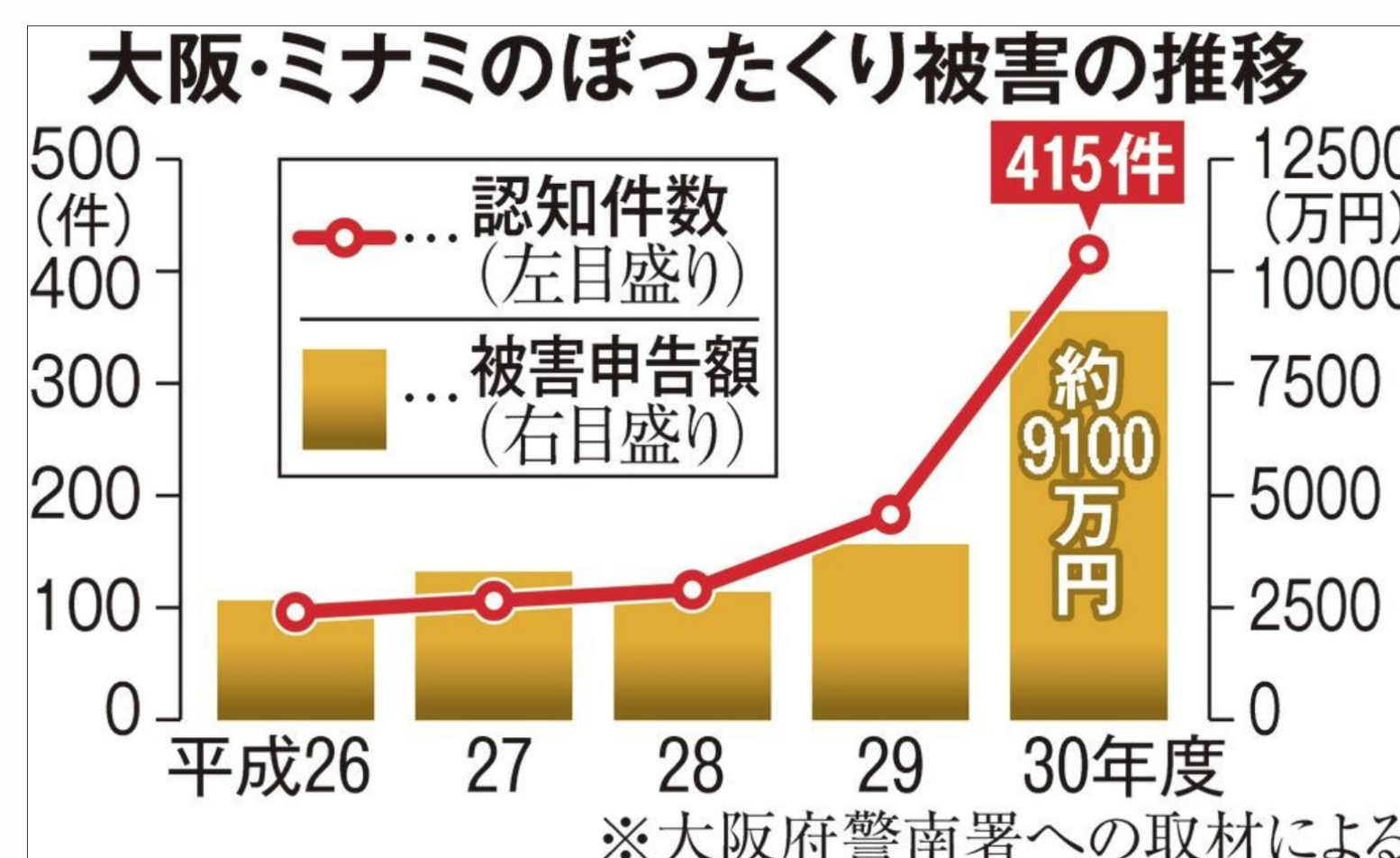


図1: ぼったくり被害の増加
(産経新聞より引用)

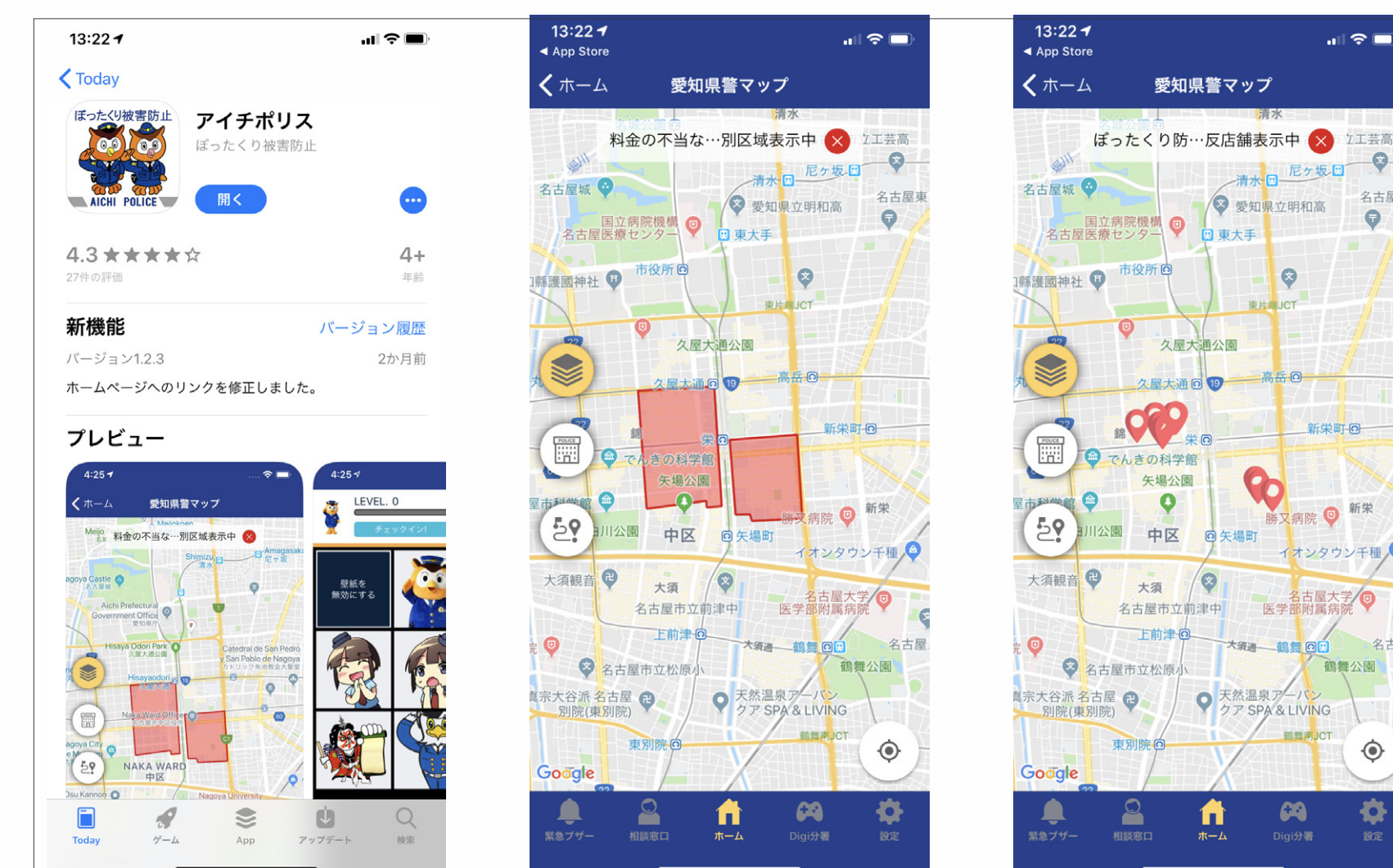
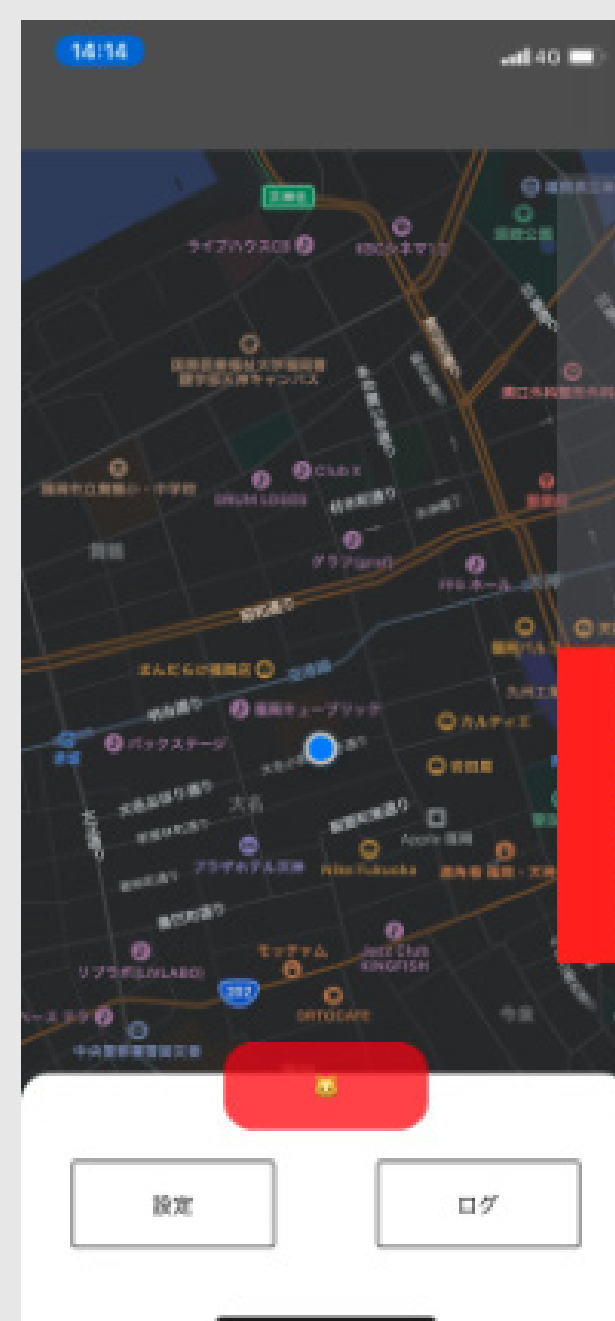


図2: アイチポリス

システム

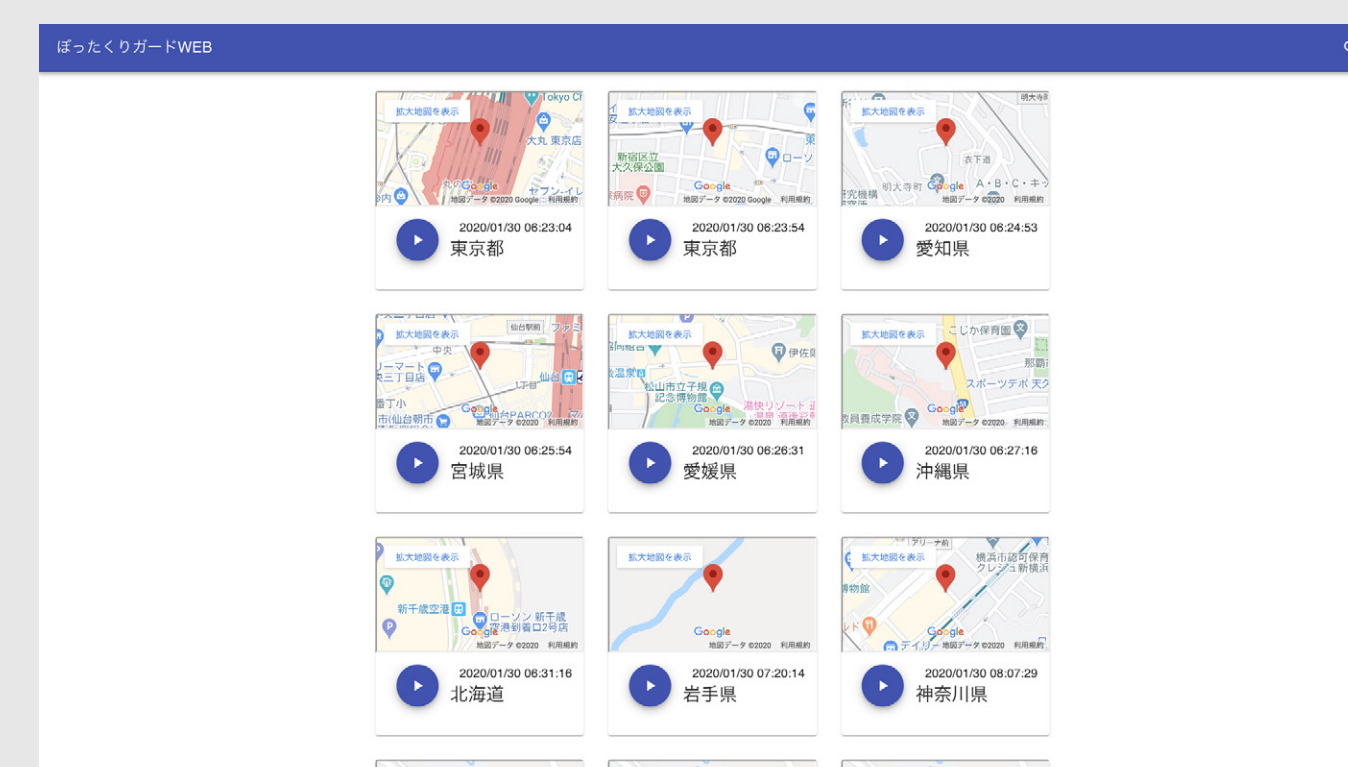
iOS/Androidアプリ

- マップ: 危険度を表示
- 録音: 立証に必要な証拠 (音声) の確保
- 通報: 以下の流れで通報
 1. 録音中の音声から脅迫などを検知
 2. 検知したらサイドボタンをクリック
 3. メール110番で通報



WEBアプリ

- スマートフォンで取得したデータを表示
- ログイン不要で確認可能
- 欲しいデータを探しやすいデザイン



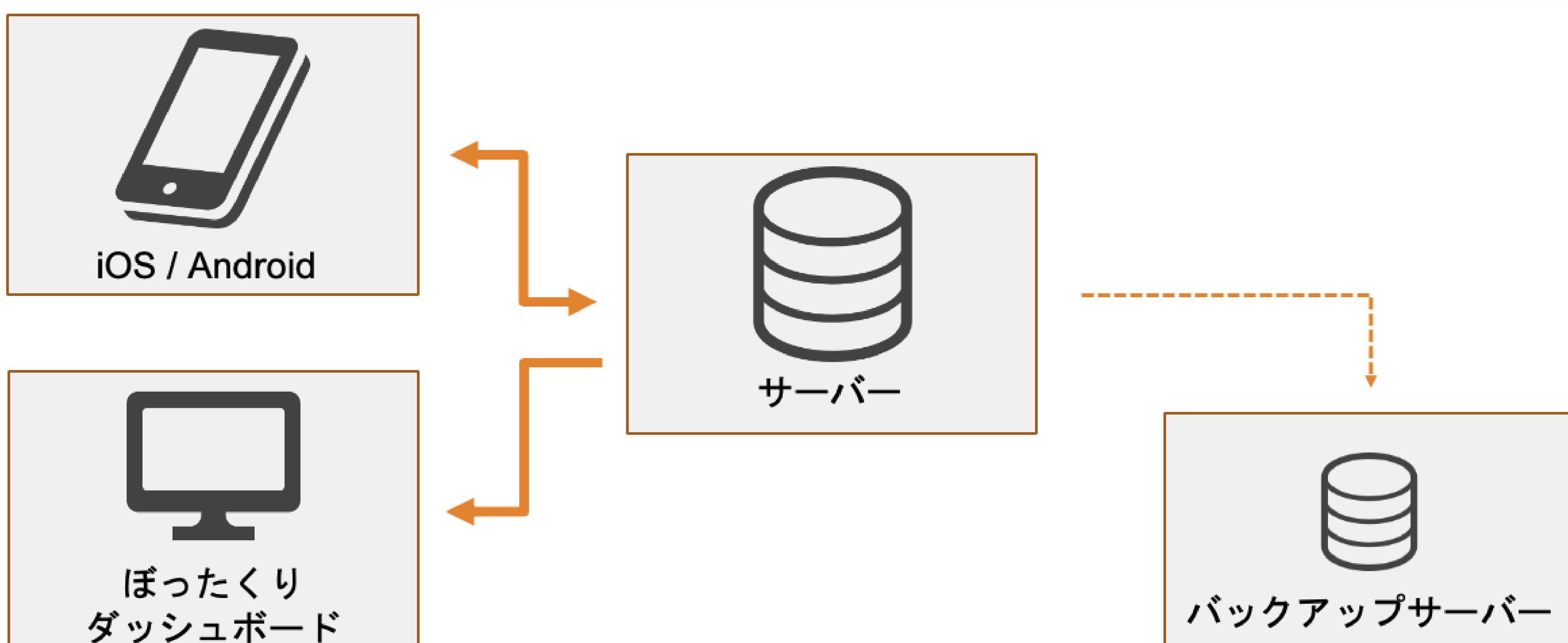
特徴

- ぼったくりの防止が目的
- 警察や検事にヒアリングをしながら開発
- ユーザーの操作はできる限り省略
- 証拠の確保と保存
- シンプルなデザイン

既存アプリとの比較

機能	ぼったくりガード	アイチポリス
危険度チェック	可能	不可能
バックグラウンド処理	可能	不可能
証拠の確保	可能	不可能
地域の制限	少ない	愛知県のみ

システム構成



今後の展望

- 雑音処理の実装
- 他の都道府県への対応
- 使えるシーンの多様化

ぼったくり撲滅！！